



令和7年度町政方針

基本方針

令和7年度は、第4次西会津町総合計画の最終年度であることから、これまでに取り組んできた事業の検証と併せて、これからのまちづくりを見据えた次期総合計画の策定を進めるとともに、引き続き、現行計画に基づき、町の将来像「笑顔つながり 夢ふくらむまち～ずーっと、西会津～」の実現に向け、「健やかな人をともに育むまちづくり」「温故創新 地産地笑のまちづくり」「いきいき健康 ころつながるまちづくり」「誰もがこちよく暮らせるまちづくり」の方向性のもと、各種事業を総合的に実施していきます。

特に、人口減少対策の三本柱として「人材育成」「移住定住の促進」「健康長寿」を事業推進の基本的な考え方に据えて取り組むとともに、デジタル戦略の着実な実行とSDGsの推進による「持続可能なまち」の実現に向け、全庁を挙げてまちづくりを進めていきます。

計画の推進に向けて

行 政運営にかかる取り組みについては、ふるさと応援寄附金事業をさらに推進していきます。「日本の田舎、西会津町。」を最大限活用した地域産品のブランド力強化並びに地域活性化起業人の活用と地域産品の開発販売戦略を推し進めるとともに、10箇所以上のインターネットサイトを活用した地場産品のPR、現地ツアーおよび都内PRイベントの開催などにより本町を寄付先に選んでいただける仕組みづくりを推し進め、寄付額2億5000万円以上を目標に自主財源の確保と西会津ファンの獲得に努めていきます。

また、まちづくりの根幹を成す「まちづくり基本条例」に基づく町民主体の協働のまちづくりを一層推進し、「官民連携」による効率的で効果的な事業運営を進めます。

所信表明



▲ 3月7日に開会した町議会3月定例会で所信表明を行う薄友喜町長

これまで西会津町まちづくり基本条例に基づく「協働のまちづくり」の推進のもとに、第4次総合計画で掲げた町の将来像「笑顔つながり 夢ふくらむまち～ずーっと、西会津～」その実現に向けてさまざまな施策を実施してまいりました。そのいずれもが昨年迎えた町制施行70周年の軌跡、並びに80年、90年、100周年を見据えた道しるべとなっております。

次期西会津町総合計画の策定に取り組む本年は、これからの西会津町を形作る1年にしたいと考えております。

そのために西会津町の現在地を見定め、新たな事業を計画し、西会津町の魅力を全国に広めさらなる活性化を図るべく、引き続き積極的なまちづくりを推進してまいります。

「賑やかな日本の田舎、やさしいふる里西会津町」へと続く新しい道筋を開き、さらにスピードを上げて西会津町を前に推し進めるため、本年も職員と一丸となって取り組んでまいりますので、議員各位並びに町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

子育て支援

安心して子どもを産み育てられる環境の充実と、若者世代が結婚や出産、そして子育てに期待や希望、喜びが持てるまちづくりに向けて、令和7年度から令和11年度を計画期間とする第3期子ども・子育て支援事業計画に基づき取り組みを進めていきます。

出産祝金をはじめ、保育料の無償化、乳幼児家庭子育て支援金の支給、インフルエンザ予防接種の無償化や放課後児童クラブの2人目以降の無料化を実施します。さらに、子ども1人の出生につき、10万円を支給する妊婦のための支援給付や、児童手当など、子育て世代の経済的な負担の軽減を強力に図っていきます。



▲子育てに希望を持てる町へ

健やかな人を
ともに育む
まちづくり

こゆりこども園では、本年度より集団での保育が困難な傷病の回復期にある園児を一時的に保育する病後児保育を開始します。また、言語聴覚士を新たに配置し、乳幼児の教育・保育の充実と質の向上を図ります。

子育て支援センターでは、子育て世代の身近な相談窓口として、保健師と保育士、言語聴覚士がチームとなり未就園児を中心に定期訪問するなどアウトリーチ型の対応を強化していきます。こども園の入園児については、管理栄養士も加わり、食事・運動・睡眠などの基本的な生活習慣の定着、肥満、口腔や目の健康対策を推進し、幼児期からの

健康能力の向上を図ります。さらに、思春期における保健対策として、子どもたちが性や妊娠について正しい知識を得て、自ら努める健康管理「プレコンセプションケア」について、学校や関係機関と連携し取り組んでいきます。

教育環境

令和2年度に整備した小学校児童のタブレット端末が5年を経過することから、本年度に更新します。これらICT教育環境を最大限活用するため、学習用ソフトの充実や3Dプリンターの設置によるプログラミング教育の強化を図ります。

また、令和6年度に開設した「学びあいランド」は、教育委員会の重点事業として各ランドの推進を図り、児童生徒はもとより、地域の皆さんの学びを創出します。あわせて、地域の皆さんが学校運営に参画する「学校運営協議会・コミュニティスクール」と地域の教育力を活用した「地域学校協働本部事業」



▲学びあいランド

を両輪とした学校と地域の協働・連携を推進し、地域に開かれた学校づくりを進めていきます。また、都市部の子育て世帯が、お試し移住をしながら、町の教育環境にも触れることができる「教育留学事業」を実施し、子どもも含めた関係人口の創出、さらには将来的な移住定住につなげていきます。

生涯学習

生涯を通じた人材育成のため、講座の開催や発表の機会を設け、「学びあいランド」を活用した、町民一人ひとりが主体性をもって生涯学習に取り組めるプログラムを推進するなど、学びの環境づくりを進めていきます。

スポーツ

運動の習慣化に向け、気軽に取り組めるグラウンドゴルフやボッチャなどのニュースポーツの普及を進めるほか、ふくしま駅伝や軟式野球大会などの市町村対抗競技を中心に取り組んでいきます。

歴史・文化

成果を発表できる機会を設けるとともに、デジタル博物館の製作に取り組みます。さらに、伝統芸能の継承と芸術文化活動を支援します。

農林業

担い手不足が深刻化する中、農業者の経営力を高め、農業生産を継続していくために儲かる農業の実現に向けた施策や、国の「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、環境に配慮した持続可能な農業の推進が求められています。「西会津町農林業振興アクションプラン」に基づき、戦略に掲げた重点事業を軸に、「米」「ミネラル野菜」「菌床キノコ」の振興を3本柱として各種事業に取り組んでいきます。

力強化事業のほか、水田土壌診断事業、西会津一うまい米コンテストの開催により、良食味米の産地化・ブランド化および販路拡大につなげていきます。

◎ミネラル栽培

土壌診断システム作成のほか、単収向上のための土壌病害虫薬剤購入補助事業、ミネラル野菜の品質と価値向上に向けた糖度測定器の整備に取り組んでいきます。

◎菌床キノコ

パイプハウスの整備および貸付けにより、産地化に向けて積極的に取り組む生産者の支援を継続していきます。

◎鳥獣被害防止対策

イノシシの被害が深刻化しているため、鳥獣被害対策専門員2名体制を継続します。新たに、鳥獣被害対策地域づくり事業により自治区が主体的に取り組む地域ぐるみの鳥獣被害対策を支援し、被害防止力の強化に努め、被害の低減を図っていきます。

◎風評払拭

農業用施設機能保全計画策

新のり
創しゅく
ち地
故産
温地
おんち地ま

商工業

「企業支援補助金」などの補助を引き続き実施し、町内企業の支援を進めます。また、「無料職業紹介事業」による

地元企業への雇用の創出・確保や、「創業支援事業」や「空き店舗および空家利活用補助事業」などの支援を図っていきます。「事業承継協議会」と連携した施策にも取り組んでいきます。

観光・交流

「西会津なつしゅり」、「西会津ふるさとまつり」、「西会津雪国まつり」など町内外から多くの来場者があるイベントの実施により、情報発信と交流人口の拡大を図ります。

また、にしあいづ観光交流協会などの関係団体や、西会津応援大使の皆さんと連携し、観光資源の環境整備を進めるとともに、温泉健康保養センターの新しい源泉の早期利用など、交流人口の拡大を図ります。さらに、台湾と町が積み重ねた文化交流を契機としたインバウンド誘致を目標とし、「台湾インバウンドに向けた地域の魅力発信事業」を実施し、観光需要の創出に向けPRをしていきます。

移住・定住

移住者に寄り添った質の高い移住支援および情報発信に取り組むとともに、各大学との交流を深め、関係人口の創出と地域の活性化に資するため「西会津のある暮らし相談室」を企画情報課に移管してさらなる強化を図ります。



▲移住者交流会

後継者対策では、出会いの場の創出として、実行委員会や企業などによるイベントと、県が運営するマッチングアプリや結婚相談所の利用促進に取り組んでいきます。また、新たに結婚新生活支援事業を創設し、住宅の取得費用などの経済的負担の軽減を図ります。

健康づくり

町民の皆さんの健康づくりのための健康コミュニケーションづくり推進事業が7年目を迎えました。鎌田實先生や奥知久先生の指導を受けながら「さすけねえ輪」の健康づくりを進めていきます。



▲鎌田實先生 健康づくり特別講演会

健康づくりの新たな体操・さすけねえ輪音頭については、イベントでの披露や公共施設の館内音楽に使用した普及とあわせて、地域に向いて実技講習を開催するなど、運動習慣の定着化を進めます。さらに、トレーニングジムについては、利用者のニーズを把握し、町民の運動習慣定着への支援として気軽に利

用しやすい環境整備に努めながら、本格運用に向けて取り組んでいきます。

「健（検）診事業」については、受診者による結果を説明し、生活改善につなげるため、正しく健診結果を理解する機会の充実と、二次検診の受診勧奨の強化を図ってまいります。また、人間ドック助成事業についても広く町民に周知し、受診費用の負担軽減に努めながら病気の早期発見・早期治療につなげていきます。また、重要課題である多量飲酒や喫煙対策については、若い世代や働き盛り世代を対象に、企業と連携した健康教室を開催するなど、生活習慣の改善につながる取り組みを強化していきます。

医療

町の国保診療所は歯科を除く町内唯一の医療機関であり、町の医療サービス全般を担っていることから、常勤医師3名による診療体制の維持・強化を図るとともに、会津医療センターや民間病院に

非常勤医師の派遣を引き続き要請し、整形外科などの診療を継続するなど、今後も安心できる医療体制の整備と安定した地域医療サービスの充実に努めていきます。

高齢者福祉

「西会津町地域福祉計画・西会津町地域福祉活動計画」に基づき、元気高齢者から要介護高齢者まで全ての高齢者の皆さんが、切れ目なく介護予防や重度化防止に取り組みめる体制を整備してまいります。医療と介護、福祉のスムーズな連携のための体制づくりをさらに進めていきます。

また、介護老人施設の整備については、「西会津町医療介護連携推進基本構想」の具現化に向けた検討チーム「田舎ケアハード会議」において、検討した結果、現在の医療と介護、福祉機能が集約された環境や福祉・介護事業の安定した経営を持続していくためには、現施設の再整備を進めることが優位であるとの結論に至ったところです。

誰もがこころよく暮らせるまちづくり

雪対策

町雪対策基本計画に基づき、官民協働による克雪活動を進めていきます。

今冬は例年になく記録的な大雪となり、野沢町内では通常除雪が困難な状況となったことから、集中除排雪を実施するなど交通確保に努めました。今後も町民生活に支障を来さないよう適正な道路除雪体制の整備に努めていきます。冬期間でも安心した生活が送れるよう、日々の生活の支障となる除排雪への対策として、雪処理支援隊の充実と除排雪費用助成事業の円滑な運用を進めます。冬期間の雪



▲一斉除排雪作業（野沢）

対策に限らず、1年を通じた高齢者の見守り体制の強化などについて、地域の皆さんや関係機関と連携を図りながら進めていきます。

交通体系・道路網

町民バスについては、利用者の多くを占める高齢者の利便性を高め、新たな利用に繋げるため、サロンや老人クラブを対象とした出前講座を活用し、デマンドバスのPRを行ってまいります。これまでの利用状況を分析し、バス交通体系の充実に努めていきます。

道路網の整備については、安全・安心の確保と持続性のある地域づくりを支え、良質

な社会資本を将来に引き継ぐため、効果的な整備と効率的な維持管理に努めていきます。また、町道の改良事業は、地域からの要望などに基づき計画的に整備を進めていきます。老朽化している橋梁やスノーシエッドなどの修繕事業は、点検結果と長寿命化修繕計画に基づき、損傷度や路線の重要度などを勘案しながら、計画的に修繕を進めていきます。舗装についても、路線の重要度や損傷度などを勘案し、計画的に修繕を進め、農道や林道については、その開設目的に合った維持管理に努めていきます。

国・県道については、町の重要幹線として、その整備や適正な維持管理を関係機関へ要望してまいります。特に、町縦貫道路の区間については、早期完成に向けた整備促進を積極的に要望してまいります。また、令和4年8月の水害による通行止め経験から、災害に強い道路や、河川の整備を国、県に要望してまいります。

認知症に関連する相談や要介護等認定者が増加していることから、認知症の初期対応を行い自立した生活をサポートする認知症初期集中支援チームによる支援と、本人や家族に寄り添った支援体制の強化として「チームオレンジにしあいづ」の活動推進を図ってまいります。

健康いきいきつながるまちづくり

「第7期西会津計画・第3期西会津町障がい児福祉計画」に基づき、近隣市町村や関係機関と連携を図りながら、誰もが安心して暮らしていけるまちづくりに取り組んでいきます。



▲奥川七観音ウオーク

コミュニティ

人口減少や少子高齢化が進む中、集落機能の維持、活性化に向け、集落支援員などによるサポート体制を強化します。都市部の学生や社会人が参加する人足イベントの実施により、関係人口や交流人口の拡大に取り組んでいきます。

情報通信

町デジタル戦略を推進し、デジタル技術を戦略的に有効に活用し、地域課題の解決や行政サービスの向上、移住定住の促進を図ってまいります。

消防防災安全対策

消防設備について、防火水槽1基の新設、小型動力ポンプ2台の更新整備を図ります。また、消防団の活動環境の見直しのほか、消防力の充実強化を図り、防災アプリや雨量観測システムなどのデジタル技術を効率的に活用し、災害に強い安全なまちづくりを進めていきます。



▲町総合防災訓練

自然・環境保全

地域の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、町民みんなで身近な環境に目を向け、脱炭素社会を目指す必要があることから取組みに向けたロードマップを策定し、有識者の意見を聞きながら「カーボンニュートラル」の宣言に向けた準備を進めます。

また、老朽化が進んでいる「さゆり公園」施設の計画的な整備により、利用者の利便性向上を図るほか、福島レックドホープスとの連携などによる施設の有効活用についても積極的に取り組めます。

上・下水道の整備

水道事業会計が簡易水道等事業会計に移行することなどから、令和6年度に上下水道事業の経営戦略を策定しました。中長期的な視点からさらなる効率化、健全化に取り組みとともに、老朽化や施設設備の更新を計画的に進め、持続可能な上下水道経営を目指します。